

看護師自殺 労災求め提訴

釧路地裁に両親 パワハラ原因

釧路赤十字病院（北海道釧路市）の男性看護師（当時36歳）が自殺したのは上からのパワハラと精神的苦痛が原因として、両親の両方を見て認めなかった釧路労働基準監督署の処分取り消しを求める訴訟を、両親が提起した。両親は、医師らの暴言や指導役の権限の取り消しを求める。医師らの暴言や指導役の権限の取り消しを求める。医師らの暴言や指導役の権限の取り消しを求める。

労災認定求め 国提訴

釧路地裁 自殺した看護師両親

釧路市内の病院の看護師だった男性（当時36）が2013年に自殺したのは、職場のパワハラとメンタルが原因だったとして、両親が労災認定を申請したが、不支給の両親が24日、国を相手取り、労災を認めなかった労働基準監督署の処分取り消しを求める訴訟を釧路地裁に起こした。

自殺したのは、釧路赤十字病院の看護師だった村山謙さん。訴状によると、村山さんは同病院に就職した13年4月、手術室に配属された。ミスと理由に仕事を与えられず、医師から「前はオベ室のお荷物だな」などと言葉の暴力を受けるなど、うつ病などを発症した。両親は、村山さんが病院での業務上の出来事や精神障害を発生し、自殺したと主張。父親の豊作さん（65）は「（村山さん）5年かからないとならぬのか」。母親の百合子さん（61）は「真実を明らかにしたい」と話している。

釧路労働基準署は「個別の案件にはお答えできません」としている。（佐藤 博）

護師の叱責などが重なるなどして心理的な負担が強く、うつ病を発症したため自殺したと主張している。両親は15年9月、釧路労働基準署に労災申請したが、認められず、審査請求や再審査請求も棄却された。両親は「個別の案件にはお答えできない」とコメントしている。

看護師自殺訴訟 国側棄却求める

「パワハラ」両親主張

男性看護師が自殺したのは職場のパワハラとメンタルが原因だったとして、両親の両親が国に対し、労災を認めなかった釧路労働基準監督署の処分取り消しを求めた行政訴訟の第1回口頭弁論が10日、釧路地裁（鈴木紀子裁判長）であった。国側は棄却を求めた。訴状によると、釧路赤十字病院の看護師だった村山謙さん（当時36）は入社した2013年4月に手術室勤務となった。ミスを理由に仕事を与えられず、医師から「前はオベ室のお荷物だ」などと言われた。うつ病などを発症し、13年9月に室蘭市の自宅で遺書を残して自殺。両親は、入社時点で村山さんに精神疾患等はなく、業務上で精神

障害を発生して自殺したと主張している。両親は遺族補償一時金などの支給を申請したが、釧路労働基準署は労災を認めず、16年3月に不支給処分を決定。両親は再審査を請求したが棄却されている。閉廷後、村山さんの父、豊作さん（65）は「命を絶つ前にうそは書かない。パワハラはあったと思ってる」。母の百合子さん（62）は「新卒看護師の自死を無くしたい。悲しい思いをするのは私たちだけでいい」と協力を求めた。（佐藤 博）

看護師自殺 国争う姿勢

「パワハラ 労災」棄却求める

釧路赤十字病院（釧路市）の男性看護師村山謙さん（当時36歳）が2013年9月に室蘭市の実家で自殺したのは、勤務先でパワハラを受けたためだと主張し、遺族が、労災認定しなかった釧路労働基準監督署の処分取り消しを国に求めた訴訟の第1回口頭弁論が10日、釧路地裁（鈴木紀子裁判長）であった。国側は請求の棄却を求め、争う姿勢を示した。原告によると、村山さんの遺書には「オベ（手術室のお荷物と言われても仕方ありません）」などと書かれていたという。

看護師パワハラ自殺訴訟で初弁論 国側、請求棄却求める

釧路地裁

【釧路】釧路赤十字病院の看護師だった村山謙さんが2013年に自殺したのは職場でのパワハラとメンタルが原因だったとして、両親が国を相手取り、労災を認めなかった労働基準監督署の処分取り消しを国に求めた訴訟の第1回口頭弁論が10日、釧路地裁（鈴木紀子裁判長）であった。国側は請求の棄却を求めた。訴状によると、謙さんは13年4月に釧路赤十字病院に就職。ミスと理由に新入カリキュラムに沿った仕事から外され、医師から暴言を受けるなどしてうつ病などを発症。同年9月に室蘭市内の実家で自殺したとしている。両親は15年9月、釧路労働基準署に労災を申請したが、

「精神障害は業務を主原因とするものではない」として認められなかった。審査請求や再審査請求を行ったが、いずれも国に棄却された。意見陳述で母親の百合子さん（62）は、自殺の原因について遺書の内容から、それ（パワハラなど）以外考えられない。正しい判断をしていたと述べていた。国側は具体的な主張を次回弁論以降に持ち越した。（今井 潤）